



(株) ウヌマ地域総研
畑山 博之

— 「ゆざわの地から」 —

1. はじめに

2020年度も折り返し地点を過ぎ、肌寒い時期となってきました。上半期を振り返ると、これまで経験したことのない「コロナ禍」の猛威により、世界中が大きなダメージを受けていることが第一に挙げられます。国内では、3月末に東京2020オリンピック・パラリンピックの開催延期が早々に決定されるとともに、4月初には緊急事態宣言が発令され、5月末に全面解除されるまで約7週間緊急事態が継続されました。これまで、国内において80,000人を超える感染者と1,500人を超える死亡者が確認される事態となっています。これにより、失業や倒産、消費低迷など社会経済に大きな打撃を招いております。

弊社においても、これまで当たり前のように執り行われていた入社式等は中止され、ソーシャルディスタンスやテレワーク対応、WEB会議の活用など新たな仕事スタイルへの取組みが進められています。また、例年の技術講習会や資格試験も軒並み延期または中止が決定されるなど、企業における危機管理体制の真価が問われることとなりました。

2. ゆざわの地から

このような中、令和2年9月16日に秋田県民としてうれしいニュースが舞い込んできました。第99代内閣総理大臣に秋田県湯沢市で生誕された菅義偉氏が選出されました。秋田県生まれ史上初の首相であり、特に生まれ故郷の湯沢市では、「おらほの総理」として祝福ムードが後を絶ちません。首相にあやかった記念饅頭やイチゴパンケーキの販売、99セール開催や首相生家の見学など、今や県内外から観光客が殺到し湯沢市はこれまでにない活気にあふれています。

昨年、弊社は創業50周年を迎えました。湯沢市は我社の創業地であり、50年来、我社の進化・成長を支えてくれています。また、首相の出身校である湯沢高等学校は、私自身の母校でもあり、ゆざわに深い縁（ゆかり）を感じています。

今回、今注目されている湯沢市の伝統と文化について紹介させていただきます。



【首相就任の歓迎(市中心部)】



【菅首相の生家(湯沢市秋ノ宮地区)】

3. 湯沢市の伝統と文化

(1) 美と技が冴える、いで湯の郷

湯沢市は、県の最南端に位置し南の玄関口として発展してきました。平成の大合併で1市3町村が合併し、現在の湯沢市が誕生しています。山と川に囲まれ自然豊かなこの地は、「美と技が冴える、いで湯の郷」として伝統、文化が継承されてきました。

「美」、世界3大美人のひとり小野小町の生誕地として伝えられ、毎年6月には小町をしのんだ「小町まつり」が開催され、小町娘が平安時代の衣装に身を包み和歌を詠う優美な祭りで観客を魅了しています。8月には市中心部で「七夕絵どうろうまつり」が開催され、浮世絵や美人画が描かれた多くの絵どうろうを道中に飾り、優雅な夜を醸し出しています。湯沢市では四季を通じてイベントが盛んであり、この他にも4月には「湯沢市さくらまつり」、8月には「雄勝大花火大会」や「大名行列」、10月には「全国まるごとうどんEXPO」や「川連塗りフェア」、2月には「犬っこまつり」や「小安狭しがっこまつり」が開催されています。

「技」、匠の郷としても名な湯沢市では、800年の歴史がある伝統工芸品の「川連漆器」をはじめ、「秋田仏壇」、「まなぐ凧」等、匠の技術が継承されています。また、食の文化でも、東北の灘とも言われた老舗酒蔵が醸す「銘酒」、きりたんぽに欠かせない「三関せり」、日本三大うどんとして有名な「稲庭うどん」は、秋田県民のみならず日本全国に誇る物産となっています。

「湯」、市内には「秋の宮温泉郷」、「小安温泉郷」、「泥湯温泉」等の名湯、秘湯が点在し、ドライブでの観光と合わせて、湯めぐりの旅が楽しめます。

(2) ゆざわジオパーク

2012年(平成24年)に日本ジオパークネットワークより、「ゆざわジオパーク」が認定されました。「ゆざわジオパーク」は約9700万年前の神室山花崗岩類を基盤としています。太古の火山噴火の痕跡や、長い年月をかけて大地を侵食した水の動きなど、湯沢市の大地の成り立ちを克明に刻み込んだジオサイトがたくさんあります。

(出典：ジオサイトマップ 湯沢市ジオパーク推進協議会より)

この中で、私が推奨するジオサイトをいくつか紹介します。

「川原毛地獄」は、青森県の恐山、富山県の立山と並ぶ日本三大霊地のひとつとされています。岩肌からの水蒸気や火山性ガスにより、草木は生息せず、真っ白い山肌と岩に覆われた景色は、異次元の世界です。近くには、深い溪谷に架かる「三途川橋」があり、まさに、地獄を想像させるような光景です。



【川原毛地獄の景色】



【溪谷に架かる三途川橋】

「小安狭大墳湯」は、長い年月をかけ皆瀬川により侵食された深さ 60m の溪谷の隙間や亀裂から、高温の蒸気と温泉が激しく噴出しています。

数百段ある階段を下り遊歩道沿いに散策すると、至る所に噴出する湯や蒸気を肌で感じることもできます。近くには足湯もあり心身ともに癒しを与えてくれます。

湯沢市高松、秋ノ宮地区の山間は、日本でも有数の「地熱資源地帯」として注目を浴びており、現在、上の岱（うえのたい）、山葵沢（わさびさわ）の地熱発電所が稼働しています。現在、クリーンエネルギーを活用した発電や施設の更新・拡張等がすすめられています。



【小安狭大噴湯（上空より）】



【山葵沢地熱発電所（建設中）】

湯沢市は地下資源に恵まれており、豊富な清水は農産物の順調な生育に深く関与しています。その中で、市役所庁舎の向かいに位置する「力水」は、日本の名水百選の一つに選ばれた湧水です。首相の生誕地である秋ノ宮地区（国道 108 号沿）でも、「目

「目覚めの水」の名の湧水があり、清純な水をくみに立ち寄る人を多く見かけます。



【カ水（湯沢市役所前）】



【目覚めの水（秋ノ宮地区）】

4. 湯沢市の上下水道

市の上水道は、公営・非公営併せて2つの「上水道事業」と32の「簡易水道、小規模水道事業」が運営し、普及率は92.7%（平成30年度末：秋田県水道施設現況調査）となっています。これまで、国庫補助金を活用した水道未普及地域の解消、水道施設の統廃合等を鋭意進捗してきましたが、市郊外では、地下水が豊富なゆえ、未だに水道未普及地域も存在します。また、広大で起伏の激しい土地状況と急激な人口減少等に伴う厳しい財政事情から、未だ小規模で脆弱な水道事業が数多く存在します。

今後は、地域の水需要と既存施設の老朽化、管理人の世代交代等を鑑みて、効率的な水道施設の統廃合、区域拡張整備等を進めて行く必要があります。

市の下水道は、平成初期から整備が進められ、中心部に公共下水道（湯沢処理区）、市郊外には4つの特定環境公共下水道、5つの農業集落排水施設を整備し、合併処理浄化槽整備と併せた普及率は75.3%（令和元年度末：湯沢市HP）となっています。

今後は、公共下水道（湯沢処理区）の事業認可区域拡大による整備率と水洗化率の向上、迫られる施設老朽化に向けた更新計画策定が必要と言えます。

5. おわりに

今回、弊社が全国上下水道コンサルタント協会東北支部に入会して間もない中、この「みちのく Web 版」へ寄稿する機会を頂き感謝いたします。

未だ収束が見えないコロナ禍により、ニューノーマル（新たな常識）というワードが注目され、働き方改革にも反映されつつあります。Web 会議やテレワーク等を上手に使うとともに、これまでの五感（視・聴・嗅・味・触）による、アナログ的活動も必要不可欠と考えます。

今後も当協会の一員、又は技術者の一人として、国民の生活に欠かせないライフラインの維持、向上に向け、地域に密着した活動を志して行くことが重要と考えます。

以上